

Title	元禄演劇の研究
Author(s)	山崎, ゆみ
Citation	大阪大学, 2000, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/42221
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	山崎 ゆみ
博士の専攻分野の名称	博士(文学)
学位記番号	第 15709 号
学位授与年月日	平成12年9月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 文学研究科国文学専攻
学位論文名	元禄演劇の研究
論文審査委員	(主査) 教授 出原 隆俊 (副査) 教授 伊井 春樹 教授 天野 文雄

論文内容の要旨

この論文は、第一章 西鶴「しゃれ物語」をめぐる浄瑠璃『暦』の再検討、第二章 『世継曾我』廓場考、第三章 宇治座の浄瑠璃と江戸歌舞伎との交流—初代中村七三郎との関連を中心に—、第四章 藤十郎の实事と近松—廓場を中心に—、第五章 初代芳沢あやめの「底にうれいの思ひ入」、第六章 『兼好法師物見車』再考、第七章 『長町女腹切』試考—女方津川半太夫との関連を中心に—、からなる。近年の元禄演劇研究の成果を踏まえながら、現存資料を可能な限り駆使し、従来は看過されてきた視点も提示することによって、元禄演劇研究の新たな局面を切り拓こうと試みたものである。

第一章では、「しゃれ物語」は、西鶴が浮世草子作者としての経験から浄瑠璃に新しい要素を取り込もうとしたものであること、それが近松の浄瑠璃に多大な影響を与えたことを指摘した。第二章では、『世継曾我』の廓場の詞章が従来指摘されてきた歌舞伎の傾城事の影響だけでなく、遊女評判記にも依拠していることを明らかにした。第三章では、宇治座の浄瑠璃が江戸歌舞伎に摂取されている事実を指摘し、その経路を考察した。第四章では、歌舞伎俳優坂田藤十郎が「实事」と「傾城事」を兼ね備えた人物像を志していたが、その新境地を開くにあたって浄瑠璃作者としての近松の貢献が大きかったことを明らかにした。第五章では、初代芳沢あやめの内面の愁いを表現する「思い入れ」の演技の由来を検討し、それが近松浄瑠璃に影響を与えたことや歌舞伎の演出の実態の解明になることを考察した。第六章では、近松の『兼好法師物見車』の歌舞伎摂取の様相と浄瑠璃独自の形象を考察し、近松の浄瑠璃間での影響関係も明らかにした。第七章では、『長町女腹切』での「女の腹切り」が実際の事件に基づくという従来の説に対して、女方津川半太夫の急死を当て込んだとの仮説を提出し、時代浄瑠璃だけでなく、世話浄瑠璃にもこういう作劇法の可能性があると指摘した。

全体を通して、元禄演劇が、常に新しい境地を求める意欲的な精神によって形成されていることや、浄瑠璃と浮世草子、浄瑠璃と歌舞伎というように様々なものが密接に交流して成立している様相を浮かび上がらせた。

論文審査の結果の要旨

この論文では、たとえば第三章を典型とするように、従来まったく知られていなかった事実を解明するなど、多く

の発見と従来の研究が看過しがちであった部分に焦点を当てることによって、既成の枠を押し広げようとする強い意欲に満ちたものである。各章において、初めて指摘された点は今後の研究が避けて通れないものであることは明らかである。こうした達成は高く評価されてよい。

一方で、何よりも指摘せざるを得ない問題点は、各章の論点が論文全体の主題とどのように融合していくのかということが明確にはされていないことである。個々の論文の達成を集成し、その成果を改めて問うという性格のものであるとはいえ、全体の統合の見通しをどのように見据えているかの言及が強く求められるものであろう。また、第二章において、依拠したと想定する遊女評判記の特定について十分に論証しきれていない点など、細かい部分の補強が必要とされたり、より踏み込んだ検討とそれに基づく発言が要請される部分もある。

しかし、それらはこの論文の達成度から判断すれば、その克服とよりいっそうの展開が今後に十分期待されるものである。

よって、本論文は博士（文学）の学位に相応しいものと認定する。